



みどり



99号 『神経痛』

2016年6月1日発行／編集責任者 田中 眞／毎月1日発行／群馬県藤岡市篠塚105-1
<http://www.shinozuka-hp.or.jp/center/>

今月は「神経痛」についてのお話です。「神経痛」はよく聞かれる言葉ですが、その正体は何でしょうか。

まずは体内の神経系の簡単な説明です。体の中の神経は脳と脊髄の「中枢神経」と中枢神経から出て体中を回り巡っている「末梢神経」に分類されます(表1)。手で触るものを熱い、冷たいと感じたり、ケガをした場所に痛みを感じたりするのが末梢神経です。「神経痛」は、ある末梢神経が圧迫されたり炎症を起こしたりしたことで、その神経の走向に沿って起こる痛みの総称です。代表的なものに「三叉神経痛」「肋間神経痛」「坐骨神経痛」などがあります。

表1:体内の神経

- ・中枢神経・・・脳・脊髄
- ・末梢神経・・・中枢神経からでて体の各所に

神経痛の種類

A: 三叉神経痛

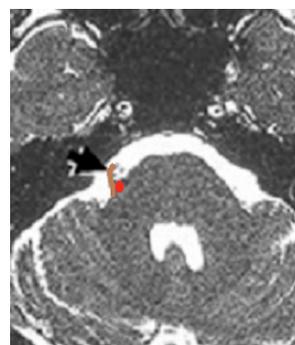
三叉神経は顔面の感覚の大部分を支配している神経で、この神経に痛みがでるのが「三叉神経痛」です。三叉神経には三つの枝があり、それぞれ、おでこ、頬、下あごに届いていますが、三叉神経痛は、頬を担当する第2枝領域で多くなっています。

昔から原因不明の痛みとして知られていまし

たが、近年、脳の中の血管が神経に触れたり(図1)、脳を圧迫したりして起こることが分かってきました。

図1: 血管に圧迫されている三叉神経の頭部MRI画像

三叉神経(→先端の茶色線)が脳幹出口で血管●に圧迫されている



脳神経外科疾患情報ページ <http://square.umin.ac.jp/>より改変

痛みは非常に強いもので、患者さんは「ナイフで刺されるような」、「えぐられような」と表現します。突発的な一瞬～数秒の痛みがほとんどで、長いものでも数十秒です。洗顔やひげそり、化粧でも誘発されることもあります。診断は詳細な問診と脳のMRI撮影です。治療には内服薬や手術、放射線照射があります。

(みどり55号で三叉神経痛の診断や治療についても詳しく説明されているので、こちらをご参照ください)

B: 肋間神経痛

背中から胸や腹部の肋骨にそって走行している肋間神経の領域の痛みです。肋骨にそって

激しい痛みがおきます。帯状疱疹（後述）や脊椎症，外傷などが原因となります。

C: 坐骨神経痛

お尻から太もも，ふくらはぎ，足の裏にかけて走行している坐骨神経の支配領域(図2)に起きる痛みです。

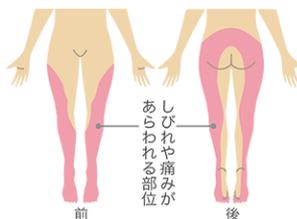


図2: 坐骨神経痛で痛み部位

ファイザー製薬「疼痛.jp」
<http://toutsu.jp/column/>より転用

腰椎椎間板ヘルニアや脊柱管狭窄症などが原因になります。

神経痛の原因となる疾患と治療

1. 帯状疱疹

帯状疱疹は体内に潜んでいる水ぼうそうのウイルスが再活性化して起こります。疲れている時や他の病気に罹患している時など，体力が落ちている時に帯状疱疹を発症しやすくなります。最初に皮膚にチクチクとした痛みを感じた後，小さな赤い水ぶくれが痛みを感じた場所に帯の様に出現します。(図3)



図3: 帯状疱疹の皮疹

左側腹部に赤い水ぶくれが帯状に出現。

(ダケダ健康サイト

<http://takeda-kenko.jp/>より転用)

皮疹は胸や背中などの胴体部分や，顔面に出現する頻度が高いです。末梢神経の走向に沿って出現するため，体の片側に出現し左右両側にまたがることはありません。

水ぶくれは2~3週間ほどで治るものの後遺症として神経痛が残ることがあり，帯状疱疹後

神経痛と呼ばれます。帯状疱疹の皮疹が重かった方や，高齢者で出現しやすい後遺症です。

治療は抗ウイルス薬の内服や点滴，塗り薬の使用です。神経痛に対しては痛み止めの服用や，神経ブロック（痛みを感じている神経の周辺に局所麻酔薬を注射する）を行うこともあります。

2. 椎間板ヘルニア，脊柱管狭窄症

椎骨（背骨）の間にある椎間板がはみ出して末梢神経の根元を圧迫している椎間板ヘルニアや，加齢に伴って神経が通っている脊柱管の内部が狭くなって神経を圧迫する脊柱管狭窄症の状態（図4）も神経痛の原因になります。

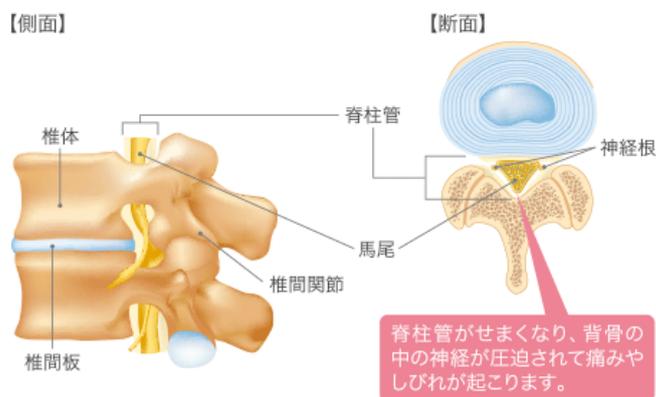


図4: 脊柱管狭窄症

神経の通り道である脊柱管が狭くなり，神経(馬尾)を圧迫している

ファイザー製薬「疼痛.jp」<http://toutsu.jp/column/>より転用

椎間板ヘルニアは，腰に負荷のかかるスポーツ，長時間の運転やデスクワークで発症しやすくなります。治療はどちらも安静や湿布薬，鎮痛薬の使用と，必要に応じて手術です。

* * * * *

神経痛のある方は痛みをともなう動作や姿勢はなるべく避け，ひどい時は横になって休養をとることを心がけてください。神経痛は全体的に冷えて悪化する傾向もあります。

(文責：池田祥恵)